

(1) 目指す学校の姿		○「地域と歩むものづくり」のキャッチフレーズのもとに、地域と連携したものづくりに取り組み、人間性豊かで、積極的に行動できる専門的職業人を育成する学校
(2)	育みたい資質・能力 (育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	○ 「あいさつ・身だしなみ・きれいな学校」(桑名工業三原則)に加え、時間を守ることが徹底され、真摯に授業に取り組み、部活動、生徒会活動、資格検定試験などに生き活きと取り組む生徒 ○ 「地域と歩むものづくり」を目標に、本校独自のキャリア教育を通じ、自ら考え積極的に行動できる生徒 ○ 人間性豊かな専門的職業人を目指す生徒
	ありたい 教職員の姿	○ 生徒の成長する姿を思い描き、その姿を実現するべく全力で生徒に指導する教職員 ・デュアルシステム等を通じ、教科指導とキャリア教育の充実に向けて、意欲的に取り組む ・失敗を恐れず常に前向きにチャレンジする姿勢を保ち続ける ・生徒が興味・関心を持てる授業を展開するよう、常に研究を怠らない ・資格取得指導・部活動の指導や教育相談にも積極的に取り組む ○ 情報共有を行ない、学校の目指す方向を職員全体が知り、同じベクトルで向かう

2 現状認識		
(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<生徒> 進路実現、充実した学校生活、資格取得 <保護者> 生徒の進路実現、基本的生活習慣の確立、資格取得、人間性豊かな人格の形成 <地域、地元企業等> 地域で活躍できる社会性を身につけた、人間性豊かな職業人の育成
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	
	<保護者、中学校関係者> 情報共有、連携、協働 <地域、地元企業等> 地域で活躍できる人材育成	連携する相手への要望・期待 <保護者、中学校関係者> 本校教育活動への理解、協力、情報共有 <地域、地元企業等> 本校教育活動への理解、協力、情報共有、指導
(3) 前年度の学校関係者評価等		○身だしなみを整える、学校をきれいにすることは社会人としてのマナーであり、指導を徹底してもらいたい。 ○第1希望の企業に就職できるように、授業や補習を充実させ、基礎学力の定着、資格取得に力を入れてもらいたい。 ○生徒募集に関して、しっかり取り組んでもらって成果が出ている。 ○保護者の学校教育への興味関心を引き、協力を得ることがより良い学校教育につながるので、HPの更新の際に質を向上させてもらいたい。 ○工業教育・安全教育を基本から徹底することが、社会へ出てから役に立つので、しっかり指導してもらいたい。 ○「地域と歩むものづくり」に基づき、積極的に企業や地域と連携した取り組みをして、生徒の成長につなげていただきたい。 ○生徒の自立を促すためには、何の目的を持ってこの教育活動を行うのかを示し、理解させた上で取り組むことが必要である。
(4) 現状と課題	教育活動	○着こなし講座によって身だしなみが改善されているが、整理整頓されていない教室が一部あるので改善したい。 ○遅刻・途中退室が減少したが、時間を守ることが徹底していきいたい。 ○本来は授業で基礎学力を定着・向上させるべきであり、授業をもっと実りあるものにしていきいたい。 ○資格取得者数が少なく、資格合格率が低いので、資格指導を充実させたい。
	学校運営等	○「地域と歩むものづくり」に基づいた企業や地域と連携した取り組みが少ないので、改善したい。 ○1次就職試験の不合格者を出さないように取り組む。また工業系大学への進学者が少ないので、増やしたい。 ○学校HPやすぐーるを利用して保護者への情報発信や連絡を密にすることで、保護者との連携協力体制を強固にしていきいたい。 ○工業高校の魅力、桑名工業高校の魅力の発信が少しずつできているので、継続していきいたい。

3 中長期的な重点目標	
教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	1. 桑名工業三原則の堅持に加え、時間を守ることの徹底に努める。 2. 規律ある授業を行いつつ、基礎・基本を大切に魅力ある授業づくりに努める。 3. インターンシップ・デュアルシステムなどキャリア教育を推進し、生徒の主体的・対話的で深い学びを実現し、工業への見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行う。 4. 地域と連携したものづくりを行うことで、豊かな人間性を育み、生涯の見通しをもって創造的に探究できるよう学習活動の充実を図る。 5. 資格取得指導を充実させるとともに、基礎学力の定着と向上に努め、工業高校指導者の育成に努める。
学校運営等	1. 「情報共有と連携」をキーワードに意識統一を行い、チーム桑名工業で取り組む組織づくりを進める。 2. コンプライアンス研修を定期的 to実施し、コンプライアンス遵守を徹底する。 3. 部活動指導を複数顧問が交代で行うなど、総勤務時間の縮減に取り組む。

4 求める生徒像	
入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	・高等学校における学修に必要な基礎学力を有していること。(知識・技能) ・基礎的な思考力・判断力・表現力を有していること。あるいは、それらを身につける意欲を有していること。(思考力・判断力・表現力) ・活気あふれる学校生活をめざし、部活動や生徒会活動、ボランティア活動または資格検定試験などに積極的に取り組む意欲を有していること。(主体性)

5 本年度の行動計画と評価指標

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。
(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。
【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。
【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
魅力ある授業作り・基礎学力定着・三原則の堅持	<1学年> 基礎学力の定着を一番の目標として朝のSHRで学習を行う。また、教材研究や指導方法を工夫し、教員間で情報交換を行い授業力の向上を図ります。資格取得に関しても各系と連携を取り、チャレンジを促す。 【活動指標】 授業満足度調査のアンケート 【成果指標】 満足度80%以上 【活動指標】 基礎力診断テスト 【成果指標】 D2ランク以上の生徒が90%	年度末及び適宜記入	○
	<2学年> 教員間のコミュニケーションの充実を図り、スムーズな組織運営ができるように努める。各学期終わりに授業アンケートを実施し、満足度が目標を超えられるように教科担当者に結果をフィードバックする。基礎学力定着と資格取得に向けて、朝のSHRの時間に小テスト等を行う。 【活動指標】 授業満足度調査のアンケート 【成果指標】 満足度80%以上 【活動指標】 基礎力診断テスト 【成果指標】 D2ランク以上の生徒が90%	年度末及び適宜記入	○
	<3学年> 満足のできる進路実現に向け、基礎学力定着のために朝のSHRで学習に取り組む。また、資格取得を奨励する。 【活動指標】 基礎力診断テスト 【成果指標】 D2ランク以上の生徒が90% 【活動指標】 有用な資格取得を奨励する。 【成果指標】 履歴書の資格欄に資格を記入できる生徒の割合が100%	年度末及び適宜記入	○
	<教務部> 公開授業、研究授業を年1回以上実施するとともに、授業振り返りシートを活用し、教員の授業スキルアップに努めます。また、規律ある授業展開を促進し、どの生徒も学びやすい雰囲気をつくり、基礎学力の向上につなげます。 <人権> 差別をなくし多様性を尊重できる社会を築く人材を育てるために、私たち教職員自身が差別について深く学び、自身の価値観をアップデートしていくことが不可欠です。そのため人権担当として学んだことを積極的に学校全体に共有し、発信していくことで、学校全体の人権意識の向上に努めます。 <図書> 利用者への資料提供(書籍購入、相互貸借)、「調べもの、探しもの」などの情報提供の補助といった基本的な図書館のレファレンス業務の推進、基礎分野や専門分野の書籍の充実、そして調べ学習に対応可能な図書館として配架、蔵書冊数の充実を図り利用者支援について一層励みます。 生徒や教職員に向けた情報資源の収集・活用方法の指導及び提案を行っていきます。 生徒が司書室へ入室する際に桑名工業三原則を徹底させ、基本的生活習慣の確立を目指します。	年度末及び適宜記入	○
	<進路指導> 【活動指標】 生徒が希望する進路実現のため、基礎学力の定着を図り、教員間で情報交換する中で社会人としての資質向上を図ります。 【成果指標】 桑名工業三原則のあいさつ、身だしなみ、きれいな学校を堅持し、社会において大切であることを理解させます。	年度末及び適宜記入	○

魅力ある授業作り・基礎学力定着・三原則の堅持	＜生徒指導＞朝の登校指導において挨拶や服装指導を行い、遅刻者には理由の確認と根本的な原因の改善を促す。保護者への連絡と協力をお願いする。服装については全職員で指導する。日頃の学級活動や清掃指導を通じて学習するための環境づくりを徹底・推進する指導体制をつくる。 【活動指標】遅刻統計を毎月公表する。月2回の遅刻であいさつ運動をする。 【成果指標】体調不良以外の遅刻者数を30%減少させる。	年度末及び適宜記入	◎
	＜保健安全部＞ ・保健室利用の際に挨拶や身だしなみの指導を行い、生徒一人ひとりの個性を尊重し、親切でこまやかな対応を心がけます。 ・清潔な保健室の維持に努め、生徒にも職員にも快適な室内環境を整備し、過ごしやすく働きやすい環境づくりを目指します。 【活動指標】 ・生徒をていねいに観察し、心身の早期回復を目指して適切な処置・対応を行います。 ・本校職員の健康維持のため必要な情報を提供し適切な支援を行います。	年度末及び適宜記入	
	＜電気系＞ ・小さな「わかる」の積み重ねで人生が「かわる」を生徒に還元するために、 ①授業の教材や指導法において教員間で情報交換および相互のスキルアップをはかり職員の授業力向上を目指します。 ②電気系の資格取得を勧め、資格取得指導において情報共有をはかり職員の指導力向上を目指します。 ③生徒に対し基礎基本を中心とした学習指導に力を入れるとともに、課題解決能力の育成を目指します。 ・自立する18歳を目標に、将来困ったときに主体的に解決できるような考え方ができるように取り組みます。 ・生徒、職員が丸となって「きれいな学校づくり」をさらに推し進め、電気実習棟の整理整頓をすすめます。準備、あと片付け等の基本姿勢とともに、「あいさつや身だしなみ」など基本行動の習慣化に取り組みます。 【活動指標】 ・学習内容が「わかる・できる」ことにより、生徒全員が授業に対する達成感（満足度）を得られるように努めます。 ・電気系実習棟の実習室および廊下における美化を徹底します。 【成果指標】 ・年度末における生徒の授業に対する満足度が80%以上になることを目指します。 ・電気系実習棟の実習室および廊下において「ちり・ごみ」がなくきれいな状況となるよう取り組みます。	年度末及び適宜記入	
	＜機械系＞ ・深い学びを体感できるように基礎基本を大切にし、分かりやすい授業を実践するとともに手法や技法について教員間で情報を共有することで、機械系教員全体の知識や技術の向上に努めます。 ・桑名工業三原則および安全作業を徹底することで、工業そのものの見方・考え方や製造現場での活動を涵養し、より実践的な学習活動を行います。 【活動指標】 ・基本的な知識の定着を図り、そのうえに専門的な知識を積み上げるよう系統的な授業展開をする。 ・ICT等を有効に活用して視覚的な教材を提示し、より具体的に学習内容が理解できるように授業を展開します。 ・実習前点呼や作業前の安全指導を徹底するとともに実習室の環境整備・整理・整頓に努めます。 【成果指標】 ・授業や実習でのICT活用率と生徒の授業満足度が高水準（80%以上）を保つことを目指します。 ・作業中の重大事故・災害ゼロを目指し、「安全で学びやすい」教育環境の実現を目指します。	年度末及び適宜記入	

キャリア教育・資格・課題研究を含めた地域と連携したものづくり	<1学年> ICTを活用したクラス運営と授業の展開、学年校務の効率化を実施します。生徒が進路実現に合致したコース選択ができるように支援します。 【活動指標】 G-suite for Educationを利用 【成果指標】 クラスルーム参加率100% 【活動指標】 コースガイダンス（2回）、系ガイダンス、実習見学会（2回）、コース選択面談（3回）を実施します。 【成果指標】 生徒のコース選択満足度100%。	年度末及び適宜記入	
	<2学年> 主体的・対話的で深い学びの中で、生徒が満足できる進路実現へ向けて情報発信等で支援します。 【活動指標】 進路シミュレーション活動、インターンシップ実習体験、進路ガイダンス、3年生進路体験報告会 【成果指標】 満足度100%	年度末及び適宜記入	
	<3学年> 進路選択に必要な知識を身につけるため、企業や学校研究に努め、職業理解を深める。 【活動指標】 進路シミュレーションを通じて生徒・保護者の希望に沿った進路決定を実現する。 【成果指標】 生徒・保護者との面談を経て希望の進路先への決定率100%	年度末及び適宜記入	○
	<教務部> 授業時間の確保や、キャリア教育に関するより深い探究ができるカリキュラムを編成します。 <教務部：図書> 生徒の進路選択の判断材料となる幅広い分野の資料収集、及び職業選択やインターンシップの参考となる資料の購入、地元企業の持つ技術力に関連する専門資料、資格試験に役立つ資料の充実を進めます。	年度末及び適宜記入	
	<情報> ・教科担当教員の授業におけるICT機器の活用率の向上、及び生徒購入iPadの使用率向上を図る。その為に、情報研修の充実と周知に努め、参加率100%を目指す。また、さらなるICT教育の充実を図るために環境整備・改善に努める。 ・近未来に向けた生徒の情報活用能力や主体性を持った考え方を育て、society5.0で実現する社会に対応出来る人材を育成できるよう最新情報を学校全体で共有する。 ・学校HPを月5回更新など広報活動に努め、本校受験者数確保に向け地域や中学生への情報発信を行う。 <進路指導> 【活動指標】 キャリア教育を推進し正しい勤労観・職業観の育成を目指し、豊かな人間性を育み生涯の見通しを持たせる教育を実践します。また一人ひとりの社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる態度を育成します。 【成果指標】 ・3年生には就職試験および進学対策としての面接指導を複数回実施します。6月に業者に委託した模擬面接指導、9月に全職員対応の模擬面接指導を実施します。 ・2年生には12月以降に「進路決定シミュレーション」など進路決定に向けた対策を早期から実施し、生徒が自主的に進路を決定する機会を与えます。 ・1年生には入学後からコース選択の取組みにより、将来の進路実現を考えさせる機会を作ります。また、12月には職業適性検査を実施し個々の適性について学ぶ機会を設定します。 ・特別な支援が必要な生徒を早期に把握し、該当生徒に関係するすべての職員の協力と理解を得ながら、生徒自身が進路実現に必要なスキルや方策を身につけられるよう、個別の支援策を教育相談係と連携して行います。 ・各学年で複数回の進路講話や職業理解ガイダンス等を実施します。	年度末及び適宜記入	

＜キャリア探究部＞

- ・１年次は、桑名工業高校成果発表会やポスターセッションを通して地元や周辺企業の特色等を知ること、勤労感や職業意識の育成を行い、将来の進路選択についてのビジョンを考えさせます。
- ・２年次は、インターンシップ等を通して、生徒自らが適正な職業感や、必要な資格や技術について考え、セルフマネジメントを行なうための大きな機会とします。また、デュアルシステム専攻生徒に関しては上記に加え、対人関係スキルなどの人間力の向上にも努めさせます。
- ・３年次は、企業と連携した授業等を通して創造性や探究心を向上させるとともに、これまで実施してきたインターンシップや企業での実習等を通して身に付けた力を、進路実現に向けて大いに発揮させ、社会人になるにあたっての心構えを定着させます。

【活動指標】

インターンシップや企業での実習を充実させるため、事前指導を徹底し、実施する意義や身に付けてほしい力について生徒たちに十分に理解させ、その意欲を喚起させます。体験する希望職種に対応できる企業の開拓ならびに受け入れ態勢の調査のために、企業訪問や担当者との面談を複数回実施します。また、キャリア教育の充実に向けて、企業や大学そして地域と連携した授業等を実施していきます。

【成果指標】

インターンシップは地域産業やその特色を知り、働くことについて考える最初の一步となることから、指導の充実とアンケートによる理解度・満足度の高い数値を維持し、その結果を後の進路指導に活かします。成果発表会やポスターセッション、企業等と連携した授業等を通じて、思考力や表現力に加えて自己理解や他者理解などを向上させ、個々に応じた人格を形成できるようにします。また、企業アンケートについても、満足度を高い水準で維持するために、その結果を生徒にフィードバックし、自身に必要な知識等に気づき、それが定着できるようにします。

＜保健安全＞

- ・保健室への入退室の際、社会人として望ましいマナーが身につくように指導します。
- ・生徒との対話を積極的におこない、社会人としての資質が向上するように指導します。
- ・感染症について正確な情報を発信し、社会人として必要な感染予防の意識を高めるように指導します。
- ・健康チェックを毎日確実に行い、自他の健康の維持について高い意識を持たせ、集団の安全・安心を守る意識を育みます。

【活動指標】

- ・服装や言葉遣い、マナーや行動について正しくできるまで根気強く指導します。定着率100%を目指します。

＜電気系＞

- ・主体的・対話的で深い学びが実現できる授業を目指して授業内容を工夫します。学年に応じた生徒の生きる力を育て、地域で活躍し地域に貢献できる人材の育成を目指します。
- ・生徒一人ひとりが思考力・判断力・表現力を養い、課題を解決する力を身につけさせるとともに、自らの個性を伸ばし多様な生徒同士が協働して課題の解決に向かう授業を目指します。
- ・資格は将来の仕事を考えるアイテムであることを認識させ、資格試験・検定試験の指導を充実させて合格率の向上を目指し、生徒に自信をつける取り組みをします。

【活動指標】

クラス全員で受検する検定試験や国家資格試験において、合格率を高めるよう努めます。

【成果指標】

１年生のクラス全員で受検するものにおいて、計算技術検定３級90%以上、危険物取扱者試験乙種第４類60%以上、第２種電気工事士60%以上の合格を目指します。上位学年は、それぞれのコースにおいての上位資格取得に挑戦する。上位資格のゴールとして、電気技術者コースは第3種電気主任技術者、情報技術者コースにおいては情報セキュリティマネジメントの合格を目指す。地域と連携する事業においては「いなべ市観光協会」と連携し、観光アプリ（高校生目線）を開発することにより地域で活躍・貢献できる人材育成に努めるとともに、生徒の学びを得ることに寄与していく。

年度末及び適宜記入

年度末及び適宜記入

年度末及び適宜記入

キャリア教育・資格・課題研究を含めた地域と連携したものづくり	<機械系> ・地域や社会に貢献できる人材を育成するため、生徒一人ひとりが共同・協同・協働するために必要なさまざまな力を身につける授業や機会を提供することを目指します。 ・資格や検定試験に向けて補習を工夫し充実させることにより、合格率が伸び悩む試験の合格率向上を目指します。 【活動指標】 ・工場見学や校外活動、機械系独自の取り組みにおいて、生徒が達成感を得られるように努めます。 ・各種資格取得や課題解決に向けて、教員間での情報共有や指導方法の改善を行うように努めます。 【成果指標】 <table><tr><td>危険物丙種</td><td>80%合格</td></tr><tr><td>危険物乙種四類</td><td>50%合格</td></tr><tr><td>情報技術検定3級</td><td>60%合格</td></tr><tr><td>計算技術検定3級</td><td>80%合格</td></tr><tr><td>各種3級技能士</td><td>100%合格</td></tr><tr><td>機械製図検定</td><td>50%合格</td></tr><tr><td>パソコン利用検定</td><td>70%合格</td></tr></table>	危険物丙種	80%合格	危険物乙種四類	50%合格	情報技術検定3級	60%合格	計算技術検定3級	80%合格	各種3級技能士	100%合格	機械製図検定	50%合格	パソコン利用検定	70%合格	年度末及び適宜記入	◎
	危険物丙種	80%合格															
	危険物乙種四類	50%合格															
情報技術検定3級	60%合格																
計算技術検定3級	80%合格																
各種3級技能士	100%合格																
機械製図検定	50%合格																
パソコン利用検定	70%合格																
<生徒指導>挨拶・身だしなみ・きれいな学校を維持し、時間を守る事について校内全域で学年・科を超えて指導をするために職員間の共通理解を図る。生徒自ら積極的にマナーや清潔な頭髪を含め身だしなみに気配りできるように声掛けをしていく。社会人として必要なマナーを身につけさせる。	年度末及び適宜記入	◎															
改善課題																	

（2）学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

（例）「組織運営」「研修（資質向上の取組）」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
情報共有と連携・教職員による生徒への指導の徹底	<1学年> 学年団や関係部署との連携をはかり、日常のコミュニケーションの中で情報共有できるように心がけます。 担任だけでなく全職員にかかわってもらうようにします。	年度末及び適宜記入	
	<2学年> 各部署との連携をはかり、教職員間のコミュニケーションと情報共有を大切にします。指導が必要な生徒に対しては学年団を中心に、保護者の理解・協力を得ながら対応していきます。	年度末及び適宜記入	
	<3学年> 進路実現に向け保護者との連携を密に行う。 関係部署との連携を図り、情報共有や教職員間のコミュニケーションを大切にする。 面接指導では全職員の協力を得て、様々な視点から生徒の面接力向上を目指す。	年度末及び適宜記入	
	<電気系> ・校内グループウェア、系会議を利用して情報共有・交換をすすめ、系内における問題点を全職員で共有し、協力して課題解決にあたります。 ・教員個々の特技と知識を活かし、これを皆で共有して教員と生徒のスキルアップを目指します。個々の持つ経験や知識を共有できる職場環境をつくり業務の効率化をはかります。 【活動指標】電気系職員の授業や資格指導に協働して取組み、教員相互間の連携に対する達成感を高めるよう努め、生徒のゴールは「自立する18歳」を最高目標となるべく職員間連携して取り組みます。 【成果指標】日常の業務を通して「気付いたこと」を職員間で共有し改善に取り組み修正し生徒に還元評価する。	年度末及び適宜記入	

情報共有と連携・教職員による生徒への指導の徹底	<機械系> ・系会議やteamsなどを活用し、教員間の意見交換や情報共有を積極的に行い、話しやすい環境をつくり、課題解決に向けて実践しやすいように協力・協働に努めます。 ・各実習における生徒の安全確保に努めます。 【活動指標】 ・機械系教員が授業も含めた新たな取り組みを行い、その情報や結果そして課題についても共有します。 ・各実習で生徒情報を共有し、また工作機械の小さな不具合についても意見交換することで、事故・災害・問題行動の未然防止を図ります。ものづくりマイスターの先生方にも意見を求め、複数の目で安心安全の確保に努めます。 【成果指標】 ・系会議を含め情報共有や教員間連携の場を積極的に設け、今後の指導等の充実に繋がります。 ・年間を通して重大事故や災害ゼロを目指します。	年度末及び適宜記入	
	<保健安全> ・学校医と連携し生徒の健康状態や健康上の課題、学校環境について情報交換を行い生徒や保護者にフィードバックします。 【活動指標】 ・学期当初に学校生活への順応が心配される生徒についてはできる限り保護者を交えて情報共有をおこない、家庭との連携を密にして確かな支援が行えるよう取り組みます。 ・生徒の健康に対する意識を高め必要な情報を提供するため定期的に保健だよりを発行します。また職員や生徒を対象に緊急時の対処法等について研修会を実施します。 【成果指標】 ・毎月1回保健だよりを発行します。年に1回程度、職員対象に研修会を実施します。	年度末及び適宜記入	
	<生徒指導>生徒情報を共有しやすい環境にするため、生徒指導室の雰囲気作りに努める。問題行動や事故等が発生した場合は、情報を共有して、学年・系・分掌と連携して学校全体で指導できる体制作りに努める。	年度末及び適宜記入	
	<教務> ・教務委員会等において、教科代表教員間の意見交換や情報共有を積極的に行い、学校全体で連携して生徒を指導できる体制を作る。 <人権> ・人権教育推進委員会を通じて各分掌、学年とも連携しながら、人権学習の内容や、生徒情報の共有を進め、生徒が主体的に、安心して学ぶことのできる環境を育む。 <図書> 図書館情報を掲載した図書館だよりの定期的な発行や図書館CMなどで情報を開示し、来館促進や読書活動推進に努める。	年度末及び適宜記入	
	<総務>保護者・地域住民・報道機関への資料提供 【活動指標】 ・資料の提供については透明性があり迅速な対応に努める。 ・本校の活動がより多くの報道機関に取り上げられるよう、すぐーる、Google classroomなどを活用し、保護者・地域住民への情報提供に努める。	年度末及び適宜記入	
コンプライアンス・総勤務時間の縮減	<学校全体> 設定した日の定時に退校できた教職員の割合　・・・100% 予定通り休養日を実施できた部活動の割合　　・・・100% 放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合・　100% 時間外在校等時間が年360時間を超える教職員数　・・・0人 時間外在校等時間が月45時間を超える教職員の延べ人数・・・0人 1人当たりの月平均時間外労働　・・・・・・15時間以下 1人当たりの年間休暇取得日数　・・・・・・17日以上	年度末及び適宜記入	
	<1学年> ・普段のコミュニケーションを活用して、担任会などの会議を最小限にします。 ・年休を取得しやすいように協力し合います。 ・コンプライアンス遵守を徹底し、信頼される教職員を目指します。 ・副担任とも連携を取りながらHR活動を行います。	年度末及び適宜記入	

コンプライアンス・総勤務時間の縮減	< 2 学年 > ・ 普段から情報共有をしっかりと行い、学年会開催を最小限にします。 ・ 総勤務時間の縮減に向け、年次有給休暇等を取得しやすい環境を作ります。 ・ 副担任とも連携し、HR活動を分担して行います。 ・ コンプライアンスについては、日頃から意識を高め声を掛け合えるような雰囲気を作ります。	年度末及び適宜記入	
	< 3 学年 > ・ 進路決定の為の情報共有を密に実施します。クラスルームなどの掲示板を利用し最新の情報を提供できるように工夫する。 ・ 学年団内で連携を取り、学年・学級運営を円滑に実施することで、総勤務時間の縮減に取り組む。 ・ コンプライアンスを遵守し、生徒との信頼関係を築く。	年度末及び適宜記入	
	< 機械系 > 法令を遵守し、座学授業や実習方法・内容さらには機械系内における業務を効率化し、情報を積極的に共有することで、教員の負担を軽減し、勤務時間縮減や「休みやすい」「働きやすい」職場環境を目指します。 【活動指標】 機械系施設の環境整備、教材・資料の整理と共有、機械系業務を担当者だけに頼らず分散化し、協力・協働の実践に繋がります。 【成果指標】 機械系全教員の総勤務時間縮減	年度末及び適宜記入	
	< 電気系 > 経験や知識を共有できる職場環境をつくり業務の効率化をはかります。そのことにより労力を軽減し、総勤務時間の縮減を目指します。 【活動指標】 電気系職員が業務の効率化と勤務時間の縮減が実感できるよう互いに協力して取り組みます。 【評価指標】 業務の効率化と勤務時間の縮減に対する電気系職員の達成度の向上を目指します。	年度末及び適宜記入	
	< 総務部 > ・ 会議資料作成などの事務仕事や行事運営の実務等において、全員が協力する体制を作る。 ・ 職務の円滑な運営を実現するため、情報共有を密にする。データファイル等の所在を明確にし、業務のマニュアル化を進め、担当者不在でも仕事を継続して行えるようにする。	年度末及び適宜記入	
	< 保健安全部 > ・ 保健安全部の分掌業務を公平に分担し特定の職員に負担が偏らないようにします。職員相互の信頼関係を密にし、互いに連携して業務を効率的に遂行します。 ・ 業務を計画的に行い事前の準備を周到にして時間に余裕を持った業務展開することで、過重労働が無いよう取り組みます。 【活動指標】 ・ 保健部職員の対話や情報共有を密にして連携協力して業務に取り組み、一人ひとりの総勤務時間を縮減します。	年度末及び適宜記入	
	< 教務部 > 各係の業務を相互に連携・協力し、職務にかかる時間の削減をはかります。また、業務の円滑な運営およびコンプライアンスの遵守のために、教員間で情報共有を密にし、相互にコミュニケーションが取れる雰囲気づくりを目指します。 < 教務部：図書 > 個人情報管理を徹底し、図書館システムを利用することで、処理や業務をスムーズに行います。 部内での情報共有をはかりスムーズな図書館運営を目指します。	年度末及び適宜記入	
	< 生徒指導 > ・ 仕事内容を精査、簡素化し部員減少にも柔軟に対応出来る体勢を整える。部の連絡はホワイトボードや普通の会話を利用し、部会の回数、時間を抑えます。 ・ 係分担を行い、特定教員に負担がかからないようにします。また、互いに抱えている仕事を理解し合い、協力し合える雰囲気を作ります。	年度末及び適宜記入	

改善課題
年度末及び適宜記入

6 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	年度末及び適宜記入
---------------------	-----------

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	年度末及び適宜記入
学校運営についての改善策	年度末及び適宜記入